民報 おうしゅう 読者版

発　行
赤旗奥州出張所
水沢字久田 62
Tel 24−2021
Fax 24−2049

本当なの？

郷右近浩市長のパワーハラスメント疑惑？

郷右近浩市長のパワーハラスメント疑惑

８月９日、奥州市友好都市・米国トーランス市の硬式少年野球チームと奥州リトルシニアの日米親善交流試合が前沢いきいきスポーツランド野球場で行われました。

トーランス市側のチームやその家族らを受け入れる準備を担っていた職員（以下「Ａ職員」と記す）を、市長命で到着直前に突然担当から外す指示が出されたといいます。

その後、受け入れ側の関係者に伝わり、「大谷翔平 ふるさと応援団」などの活動に協力できない旨の苦言がだされ、市幹部のとりなしで、市長はその指示を撤回し事なきを得たとされています。

一時担当から外されたＡ職員は、７月１日の人事移動で、他の部署に移動となりましたが、受け入れには欠かせない役割を担っており、所属部からは受け入れの準備を担当できるよう手続きがなされていたといいます。

そのＡ職員は、人事担当部に「パワーハラスメント」ではないかとして訴えを出しているとされています。

（関係者の聞き取りから）



今野裕文議員

９月４日、今野裕文議員は、現在開かれている定例会一般質問で、「郷右近浩市長のパワーハラスメント疑惑」問題を取り上げ、郷右近市長に事実関係とその見解を質しました。

なぜ勝手に担当しているのか理解できなかった

郷右近浩市長は、「専制的な指示や判断によって市政運営を行っている認識はない」と述べ、「市長の言動等に係る相談」について詳細を承知しておらず回答できないと述べました。

そのうえで、Ａ職員を担当から外したことを認め、理由について、「元々担当ではなく」Ａ職員が「野球イベントに出ることに対して疑義を訴え」「なぜ勝手に担当していたのか」理解できなかったと説明しました。



市長への報告を怠ったもの

担当部長は、「総務課にはさまざまな相談があるとし、よせられて」いるとし、相談者のプライバシー保護の観点から個別の事案については回答できないと述べるにとどまりました。

一方担当課長は、職員の部署では派遣手続きがされていたことを認め、「市長の方に報告することを怠っていた」と述べ、市長の責任はないととれる答弁をしました。

これ以上 稲作農家が減らないよう 米価暴落対策を講じるべきでないか！

米価の暴落予測が現実のものとなり、稲作をやめる農家が相当数出てくるのではないかと心配されています。

今野裕文議員は、これ以上の稲作農家の減少は避けるべきだとして、兼業農家機械導入支援補助金制度の恒常的実施、半農半Ｘでくらしを支える形態の具体化や新規就農のなかで多くを占める親元就農者への支援策を講じる必要があるとして、米価暴落対策への考え方を質しました。

備蓄米の買い戻しは要望している

郷右近浩市長は、米価備蓄米の買戻しを市長会を通じて要請したほか、８月６日、鈴木憲和農水大臣（当時）に直接要望したことを報告しました。そのうえで、収入の減少について、米麦作物の収入減少影響緩和交付金や、収入保険が収入の補填になるのか、政府備蓄米の買戻しによる市場の動向や概算金の追加払いの動向を注視すると述べるにとどまりました。



20日 紙智子前参議院議員を迎えて

希望ある政治の実現を語り合うつどい



20日、奥州市文化会館展示室で、日本共産党奥州市委員会（委員長：千田美津子）主催の「希望ある政治の実現を語る集い」が開催されました。

紙智子氏は、「平和憲法を生かす国」か「戦争できる国づくり」を許すかの岐路にあるとして、今度の通常国会の様子を報告しました。その後、あらかじめ寄せられていた質問（米の暴落、消費税１％、地域医療などの問題）に答えて、「みんなで声を上げていくことが必要だ」と強調しました。